

鈴木家文書目録解題

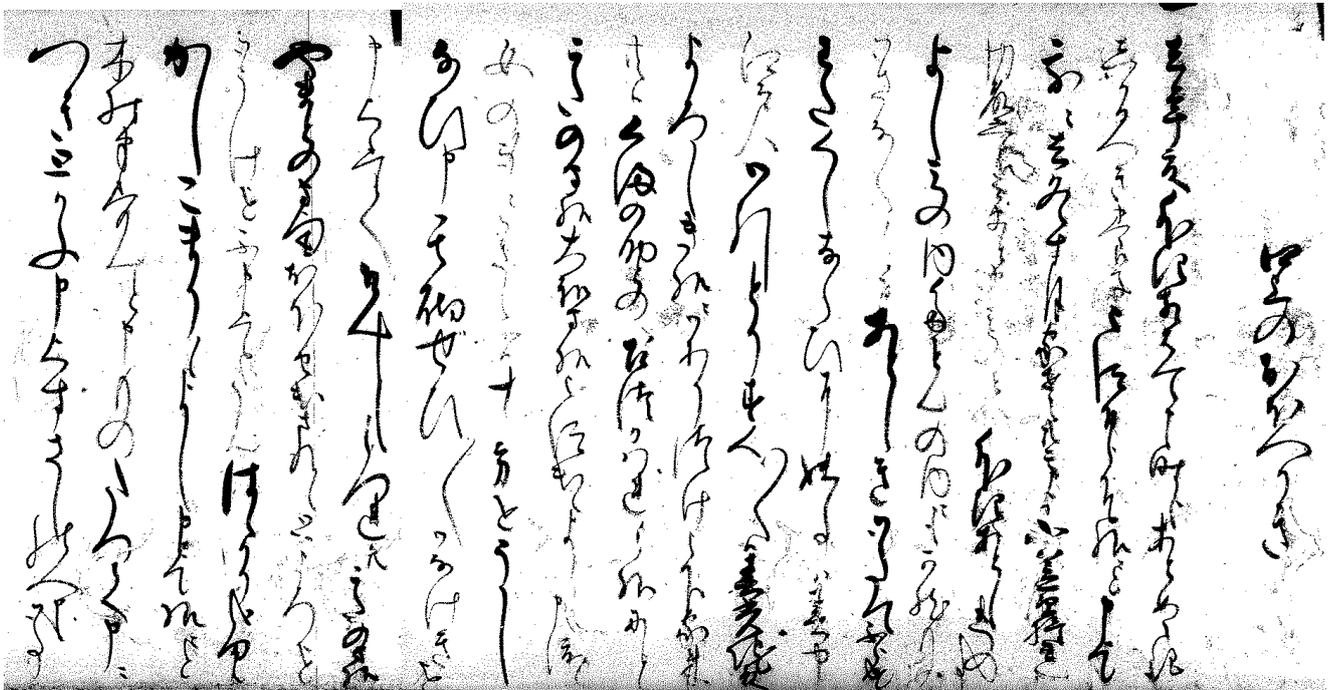
この史料は、本来は高田藩榊原家の藩祖榊原康政の兄七郎右衛門清政の子孫の家に伝来したものである。この家は、榊原家中では家老の上席に位置し、知行高は2400石、通称を「榊原丹波」「榊原若狭」「榊原外記」などとする事が多い。

さて、この史料は、同家5代榊原外記直久（実久松松平図書康久の二男・4代榊原若狭直勝の娘に配す）が、実子がないまま18歳で病死した、お家断絶の危機を憂いた直久の後室（4代榊原若狭直勝の娘）によって作成されたものである。

榊原家一門に差し出された「口上おほへかき」と、榊原家中の重臣に宛てた「別面おのおのへ申入候御事」の2点の跡目相続願で、それぞれ正文の写と下書がある。

なお、『高田藩榊原家書目史料集成第四巻榊原家御系図（2011.3ゆまに書房）』によると、榊原外記長久は寛文7年（1667）に18歳で死去している。この史料の成立はこの時代と考えて差し支えないだろう。

この史料は、現所蔵者が昭和末年ごろ榊原家から譲り受けられたものである。



「口上のおほへかき」榊原越中守外2名←榊原若狭娘（2月）
榊原若狭家跡目相続願